

平成24年12月4日

徳島県立農林水産総合技術支援センター
外部評価委員会 委員長 諸岡 慶昇 殿

県政運営評価戦略会議
会長 森田 陽子

徳島県立農林水産総合技術支援センター外部評価
委員会の運営評価結果について（提言）

去る11月7日、当県政運営評価戦略会議は、徳島県立農林水産総合技術支援センター外部評価委員会の運営評価を行いました。

当戦略会議は、県政運営評価戦略会議設置要綱第二条の規定により、運営評価結果を提言します。

この評価結果を踏まえ、今後における運営について御検討ください。

提 言 書

(徳島県立農林水産総合技術支援センター外部評価委員会の運営評価について)



県政運営評価戦略会議

平成 24 年 12 月

はじめに

平成23年10月に発足した県政運営評価戦略会議（以下「戦略会議」という。）は、県行動計画の「政策の評価」及びとくしま目安箱や知事対話などで得られた県民意見の「県政への積極的な反映」とともに、県の各部局で設置する政策評価機関（以下「評価機関」という。）を統轄する機関として、「評価機関の運営状況に関する評価」を行い、提言する機能を担っています。

「評価機関の運営状況に関する評価」については、評価機関の運営が事務局主導になっていないか、また、委員の意見や要望が運営に反映されているかといった観点から調べるとともに、評価機関の今後の運営について、戦略会議の委員も交えて考えることを目的に実施しております。

今年度は、去る7月30日に開催した第1回戦略会議において、徳島県立農林水産総合技術支援センター外部評価委員会（以下「外部評価委員会」という。）を評価対象に決定し、11月7日の第8回戦略会議でその運営状況について審議いたしました。

今回の評価に当たっては、外部評価委員会の諸岡委員長をはじめ、委員の皆様にはアンケート調査に御理解を賜るとともに、齋藤副委員長には第8回戦略会議に御出席いただくなど、円滑な業務執行ができましたこと、厚くお礼申し上げます。

戦略会議では、外部評価委員会委員から提出のあったアンケート結果や同委員会事務局から説明のあった、平成23年度における運営状況等をもとに審議を行い、提言という形に取りまとめましたので、今後における運営について御検討いただければと考えております。

平成24年12月

県政運営評価戦略会議
委員長 森田 陽子

目 次

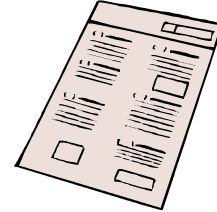
1	評価の方法	1
2	議論の概要	2
3	提 言	5
4	参考資料	
(1)	徳島県立農林水産総合技術支援センター外部評価委員会の運営に関する アンケート結果	6
(2)	徳島県立農林水産総合技術支援センター外部評価委員会関係資料	
	資料1（平成23年度外部評価実施計画等）	12
	資料2（評価様式）	15
(3)	県政運営評価戦略会議委員名簿	19

1. 評価の方法

平成23年度の徳島県立農林水産総合技術支援センター外部評価委員会を対象に戦略会議を実施。

(1) 戦略会議の事務局においてアンケート作成
(外部評価委員の諸岡委員長からも意見を頂いた。)

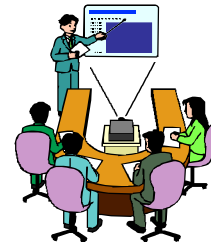
(2) 事前に被評価機関の各委員へアンケートを実施
(10月22日発送)
(運営や評価方法等に対する、意見・要望・改善点等について)



(3) 戦略会議の開催 (11月7日 午後1時～3時)

①外部評価委員会事務局から説明

②アンケート結果の公表



③事務局説明及びアンケート結果を踏まえ運営評価のポイントごとに、試験研究業務、普及指導活動、教育研修業務について検討を行った。

運営評価のポイント

- 1 評価機関の役割
 - ・規定等で所掌事務を明確に定めているかどうか。
- 2 評価機関の運営方法
 - ①会議の開催状況
 - ・審議する時間(回数、時間)が十分とれているかどうか。
 - ②施策・事業の評価手法等
 - ・評価基準が県民目線から見て適切かどうか。
 - ・施策や事業の評価手法に妥当性があるかどうか。
 - ③会議内容や評価結果の周知方法
 - ・県民や職員に周知できているか。
- 3 評価結果のフォローアップ体制等
 - ①評価結果の反映
 - ・評価結果が業務に反映されることになっているか。
 - ②反映状況の評価機関への報告等
 - ・評価機関の全委員に反映状況等が報告されているかどうか。

2. 議論の概要

(1) 評価機関の役割

実施要領で明確に定められているので、妥当である。

(2) 評価機関の運営方法

① 会議の開催状況

「外部評価委員」へのアンケートによると、会議資料は事前に送付されており、また、会議資料や説明も分かりやすいという結果がでていることから、おおむね妥当と判断された。

② 施策・事業の評価手法等

試験研究業務の評価は、新規プロジェクト研究課題については、試験研究課題の選定を主な目的としており、5段階評価及びコメントで行っている。(平均評価点が3.0未満の場合は試験研究課題としない。)また、競争的資金制度への応募課題については、外部評価委員の専門的意見を求めることを主たる目的としている。

普及指導活動については、重点課題等への取り組み活動に対し、幅広い視野から課題の設定、手法が妥当かについて、評価と提言をいただくことを目的として実施している。

教育研修業務における教育内容についても同様。

<評価基準等について>

戦略会議委員から、

- ・平均評価点が3.0未満の場合は試験研究課題としないと定めているが、他の競争的資金における評点と比べて、低いのではないか。
- ・この評価基準において、評価基準が均等になっていないのではないか。
(5段階評価で3が中間になっておらず 5：非常に高い、4：高い、2：やや低い、1：低い という基準になっている。)
- ・普及指導活動、教育研修業務では、現状やニーズ把握に数字を使っての議論がなされているのか。
- ・普及・教育業務は、試験研究業務とはその内容が違うことから、現在のような評価で妥当ではないか。

などの意見が出された。

外部評価委員会事務局からは、

- ・標準が3ということで考えていること。
- ・評価の点数は、年により変わること。
- ・普及指導業務においても普及計画において、数値での現状把握や目標設定もしていること。

などの質疑がなされた。

<評価手法の妥当性>

外部評価委員に対するアンケートでは、試験研究業務における各課題についての評価（5段階評価&コメント）は、わかりやすい方法かとの問いに対しては、わかりやすい（やりやすい）という結果であった。また、試験研究の効率化を図るため、新たにPDCAサイクルを取り入れるべきか、どうかについては、取り入れるべきとの結果であった。普及指導活動においても、事後評価が必要との結果になった。

外部評価委員からは

- ・新規プロジェクト研究課題の評価については、5段階評価だけでなく自分の言葉でコメントを書くことになっており、委員としてコメントを書くのは大変であるが、外部評価委員会事務局には意見がよく伝わり、評価方法として妥当な方法である。

一方、戦略会議委員から、

- ・5段階評価について、あまり細分化する必要はないが、いくつかの評価視点（①ニーズの把握、②研究内容、③研究体制）を設けて評価し、それを集約して最終的な評価にする方がやりやすいのではないか。
- ・アンケート結果も踏まえ、PDCAサイクルの導入を検討してはどうか。

などの意見が出された。

外部評価委員会事務局からは、

- ・以前は、各課題に対しいくつかの評価視点を設け、それを合わせた総合評価を行っていた時期もあったが、変遷を経て現在のようなスタイルになったとの説明がなされた。

③ 会議内容や評価結果の周知方法

会議内容や評価結果について、ホームページで公開しているとともに、外部評価委員に対しても評価結果が報告されていることから、周知方法については妥当という意見であった。

(3) 評価結果のフォローアップ体制等

① 評価結果の反映

戦略会議委員からは、

- ・「競争的研究資金事業への応募」について、外部評価委員の助言や指導を踏まえて農林水産技術会議が募集する研究助成事業に応募しているのであれば、その結果として採択されたのか、どうかは評価のポイントである。
- ・また、教育普及活動で言えば、例えば農業大学校生の就職、卒業した後も農業関係への就職の話とか自分のところでの生産性が上がるとか、評価したことによって結果がはっきり見えないと、評価した側も意見の妥当性や効果がわからない。
- ・評価手法で議論すべきことかも知れないが、評価結果の反映として、中間評価というのがあってもよいのではないか。実施途中の段階で、あきらめるもの、方針を変更するもの、そのまま継続するもの、予算の規模を変更するものも含めて中間評価というのがあればよいと思う。

- ・普及指導活動では、現状を把握するときに数字を使っていないのか。教育普及活動においても評価結果の反映状況において、評価したことによって結果がはっきり見えると外部評価委員の方にとっても、効果があったのか、どうか分かりやすい。

などの意見がなされた。

一方、外部評価委員会事務局からは、

- ・新規プロジェクト研究課題についても、3点以上の評価点をいただいたものは、県の次年度の施策予算に反映している。
- ・また、普及指導活動においても、外部評価委員の指導助言を反映し活動に取り組んでいる。

などの説明がなされた。

② 反映状況の評価機関への報告等

競争的研究資金事業への応募結果については、3月の3回目の外部評価委員会の中で報告している。

平成23年度の徳島県立農林水産総合技術支援センター外部評価委員会の会議資料等を見る中で、普及指導業務及び教育研修業務については、外部評価委員の指導助言の反映状況等については提示されていない。

(4) その他

アンケートにおいて、事務局に意見や要望を伝える機会はあるかとの問いに対して、全員があると回答しており、委員の意見が反映された運営になっているものと考えられる。

また、委員から外部評価委員会の委員に料理研究家を入れてはどうかとの意見が寄せられた。

3. 提 言

戦略会議では、徳島県立農林水産総合技術支援センター外部評価委員会について、評価機関の開催状況や評価基準、評価結果の反映状況などの7つのポイントから評価した結果、おおむね妥当な運営状況であると判断した。

戦略会議は短時間での議論であったが、次の点について、アンケート結果も参考としながら外部評価委員と事務局でさらに検討していただきたい。

【評価基準】

- ① 新規プロジェクト研究課題の評価の基準（点数）の合格ラインについて、より厳しくするなど検討が必要と考える。
- ② また、普及指導活動や教育研修業務において、目標について、数値的な説明が不十分な部分もあるため、外部評価委員に分かりやすい目標設定が必要である。

【評価手法】

現在、全ての業務において事前評価のみを行っているが、アンケート結果等の意見も踏まえ、中間評価や事後評価の導入について検討が必要である。

なお、試験研究業務については、現在、研究課題ごとに5段階の総合評価を行っているが、より細かく評価を行うなどの検討をお願いしたい。

【反映状況の評価機関への報告】

試験研究業務については、研究課題の選定を大きな目的にしているが、普及指導活動及び教育研修業務については、重点課題等に外部評価委員の指導助言を反映させることを目的としていることから、反映状況等の報告について検討する必要がある。

4. 参考資料

(1) 徳島県立農林水産総合技術支援センター外部評価委員会の運営に関するアンケート結果

[アンケート対象者]

外部評価委員8名のうち、委員長を除く7名にアンケートを実施し、全員から回答を得た。

(委員長にはアンケートに対する意見を伺ったことから、対象外とした。)

【全体事項】

問1 評価会議の時間は、充分ですか？

(研究(2回で3.5時間)、普及(2時間)、教育(1.5時間)で行っている。)

増やすべき	2
妥当	5
短縮すべき	0

問2 会議資料は事前に送付がされていますか？

送付されている	7
されていない	0

問3 評価結果の報告はされていますか？

されている	7
されていない	0

問4 事務局に意見や要望を伝える機会がありますか？

ある	7
ない	0

【試験研究業務】

問1 課題ごとに行っている説明は、わかりやすいですか？

わかりやすい	7
ふつう	0
わかりにくい	0

問2 説明にあたってお配りしている資料は、わかりやすいですか？

わかりやすい	7
ふつう	0
わかりにくい	0

問3 試験研究の場合、説明にあたって専門的な用語が使われることがあると思われませんが、全体としてどうですか？

わかりやすい	3
ふつう	4
わかりにくい	0

問4 各課題についての評価（5段階評価&コメント）は、わかりやすい方法となっていますか？

わかりやすい	6
ふつう	1
わかりにくい	0

問5 試験研究の効率化を図るため、研究計画について、新たにPDCAサイクル*を取り入れるべきと考えますか？

(※ Plan (計画) → Do (実行) → Check (評価) → Act (改善) の 4段階を繰り返すことによって、業務を継続的に改善する。)

取り入れるべき	6
取り入れる必要はない	0
その他(研究期間が長期(3年以上)にわたるもののみ取り入れる。)	1

問6 評価に関する感想・提案などご自由にお書きください。

- ・説明資料はわかりやすいと思います。
- ・目標を達成できなかった場合に、その是正と処置を区別して考え、設定した目標に無理があり、その目標(数値)を変更することも是正として考えるべきだと思う。
- ・個人農家さんでは不可能な試験研究は大切で重要である。
- ・生産現場での課題・問題点を取り上げ、試験研究テーマとして取り組んでいる中で、早急な結果が求められている。
- ・委員会では、県の説明だけに流されるのではなく、わからない所などはどんどん質問が出ています。
資料もずいぶん改善され、とてもわかりやすくなりました。
- ・試験研究は、長い期間がかかるものもありますが、PDCAサイクルを繰り返すことで、より良いものができ、現場で使われることが多くなると思います。
- ・試験研究の各課題が具体的にどこから上がってきているのかを知りたいです。

【教育研修業務】

問1 評価基準がありませんが、設定すべきと思いますか？
(より詳細な評価項目の設定や段階評価（ABC）などの設定)

設定すべき	2
現状でよい	5

問2 数値目標はありませんが、数値目標の設定についてどう思いますか？
(例：後継者を〇名育成するなどの設定)

業務推進に役立つ	0
評価しやすい	4
しなくてよい	3

問3 教育研修業務の評価は、農業大学校の「学校の現状と今後の方向」と「特徴ある研修教育内容」を説明し評価いただいておりますが、説明資料の量について

資料が多い	0
現状でよい	6
資料が少ない	1

問4 教育研修業務の評価様式について

評価しやすい	1
現状でよい	6
工夫すべき	0

問5 評価に関する感想・提案などをご自由にお書きください。

- ・数値での評価は80%を超える達成を良とすることが多いようです。全5項目のうち1項目でも80%未満であれば、結果として5つのうち1つが不適と判断され、全体評価としても不適になります。こうしたことを念頭に置き、数値目標を取り入れる必要があります。
- ・県立農業大学校の設立は大きな意義がある。今後も県行政の一環として、育成してゆけますように願っています。
- ・毎回、出席するたびに、農業大学校の職員の考え方や新しいことへの取り組み、生徒の考え方を生かした教育、6次産業への取り組みなど、いつも感心しています。資料などもとてもわかりやすくできています。

【普及指導活動】

問1 普及指導活動の評価は、各農業支援センターの活動概要と重点課題一課題を評価いただいていますか、これでよろしいか？

課題を増やすべき	1
現状維持でよい	6

問2 課題の説明時間について（現状1課題 25分）

長い	0
現状でよい	5
短い	2

問3 普及指導活動の説明資料の量について

資料が多い	0
現状でよい	7
資料が少ない	0

問4 普及指導活動の評価様式について

評価しやすい	3
ふつう	4
様式を工夫すべき	0

問5 支援センターに対する評価周期はこれでよいか？
(毎年2支援センター 4年周期)

周期を短くすべき	1
現状維持	6

問6 普及指導活動においても、事後評価は必要と思いますか？
(普及指導目標に基づく活動後、どのようになったかという評価)

必要	6
どちらでも良い	0
不要	1

問7 評価に関する感想・提案などをご自由にお書きください。

- ・現場での様子がよくわかるので、評価には、特に問題点はありません。
- ・事後評価は必要ですが、書類作り等に追われて本業がおろそかになるようでは困ります。人員削減が著しいので、まずは削減された人員で現在の仕事を回すことに傾注すべきではないかとも思います。
- ・長い目で見た食の安全安心の上から、農業支援センターの普及指導は重大である。生産農家のため、消費生活者のためにも可能な限りの活動を望みます。
- ・本県農業を支えていた生産者の高齢化が進む中、次の世代の育成強化が求められる。
- ・いずれの業務、活動を評価するのは大変ですが、多くの課題をかかえている人たちのために全力を投入してほしいと思っていますし、願っています。
- ・広範囲の地域を少人数での活動、大変だと思います。重点課題にPDCAサイクルを取り入れたらどうでしょうか。(ちゃんと計画・成果・改善までできている所もあるので)

(2) 徳島県立農林水産総合技術支援センター外部評価委員会関係資料

● 資料1 (平成23年度外部評価実施計画等)

1 評価のポイント

評価やご提案をいただくためのポイントは以下のとおりです。

(1) 課題別評価

1) 試験研究業務

研究課題の設定と成果の普及について

2) 普及指導活動

地域の特性に対応した普及課題の設定及び普及活動について

3) 教育研修業務

研修教育の内容について

(2) 総合評価

農林水産総合技術支援センターの研究・普及・教育の一体化による農林水産技術支援統括本部としての機能充実について

(※平成23年5月に「農林水産総合技術支援センター」を構成機関とする「農林水産技術支援統括本部」が本庁組織として設置された。)

2 評価の視点

評価に当たり参考にさせていただく評価の視点については、別紙のとおりです。

3 評価の手順

(1) 課題別評価

課題別の評価については、評価委員会ごとに別にお示しする評価表により行います。評価表は毎回の委員会終了後、指定の日までに事務局へご提出いただきます。

(2) 総合評価

総合評価については、第2回評価委員会開催時に別にお示しする評価表により行います。

評価表は、評価委員会終了後、指定の日までに事務局へご提出いただきます。

4 評価結果の取り扱い

評価結果は、当該年度末までに報告書として取りまとめ、県ホームページにおいて公開します。

また、評価結果は、以下のように活用させていただきます。

(1) 試験研究業務

新規研究候補課題の事前評価による改善等

(2) 普及指導活動

普及指導計画及び、普及指導活動の改善等

(3) 教育研修業務

農業大学のカリキュラム等の改善等

5 外部評価委員会活動実績（平成23年度）

時 期	内 容	場 所
平成23年 8月2日 13:30 ～16:15	<p><第1回外部評価委員会></p> <p>(1)平成23年度外部評価の実施計画について</p> <p>(2)【試験研究業務評価】 平成24年度新規プロジェクト研究候補課題の事前評価について</p> <p>(3)センターの新拠点整備（知の拠点）の概要について</p> <p>(4)【教育研修業務評価】 平成23年度農業大学の教育研修業務の評価について</p> <p>(5)連携取組事例プレゼンテーション（高度技術支援担当） 注）「プロジェクト研究」 「温暖化対策」や「収益力向上」など、設定された共通課題の解決に向けて各分野で取り組む試験研究</p>	徳島市 （県庁企業局会議室）
平成23年 12月12日 10:00 ～16:00	<p><第2回外部評価委員会></p> <p>(1)【普及指導活動評価】 ア活動概要及び重点課題の取り組みについて （徳島農業支援センター、鳴門藍住農業支援センター） イ重点課題の現地調査 ⑦ほうれんそうの省力化推進（徳島市国府町） ⑧れんこんの腐敗病対策（鳴門市大麻町）</p> <p>(2)【試験研究業務評価】 ア競争的資金の応募課題のプレゼンテーションと助言指導 イ最近の研究成果について ウ試験開発実行計画の骨子(案)について 注）「重点課題」 地域において、重要度・緊急度が高く、関係機関・関係団体と連携を図り、組織的に対応すべき課題 注）「競争的資金」 国等の資金配分主体が広く研究開発課題を募り、採択研究開発資金の配分を行うもの</p>	徳島市 （徳島合同庁舎AB会議室）他
平成24年 3月9日 14:00 ～16:30	<p><第3回外部評価委員会></p> <p>(1)平成23年度外部評価報告書（案）の検討</p> <p>(2)研究開発実行計画（案）について</p> <p>(3)次年度からの評価について（農業大学校） 注）「研究開発実行計画」 「もうかる農林水産業」の実現に向けた試験研究を効率的かつ効果的に推進するための5ヵ年計画</p>	徳島市 （県庁特別大会議室）

【別紙】外部評価の視点

評価対象業務	評価の視点
試験研究業務	<p><視点Ⅰ：研究課題の設定等について></p> <ul style="list-style-type: none"> ■ニーズ把握 <ul style="list-style-type: none"> ・本県農林水産業者のニーズを踏まえ、効果が十分見込まれる課題が設定されているか。 ■研究内容 <ul style="list-style-type: none"> ・目標が明確で具体性があるか。目標設定水準は妥当か。 ・研究内容が創造性・新規性・先進性に富むものとなっているか。 ・研究成果の技術移転や普及展開、波及効果は充分期待できるか。 ■研究体制 <ul style="list-style-type: none"> ・普及組織や産学官と連携した研究体制がとられているか。
普及指導活動	<p><視点Ⅰ：普及課題の設定等について></p> <ul style="list-style-type: none"> ■ニーズ把握 <ul style="list-style-type: none"> ・農業者の経営状況を踏まえ、普及が望まれる技術等のニーズを的確に把握しているか。 ・市町村、農協等団体、農業者等地域の関係者の合意は十分得られているか。 ■活動内容 <ul style="list-style-type: none"> ・目標を明確にして活動しているか。 ・進捗状況は的確に把握されているか。 ■活動体制 <ul style="list-style-type: none"> ・課題解決のための役割分担、活動スケジュール等について関係者の合意は得られているか。 <p><視点Ⅱ：研究成果とその普及について></p> <ul style="list-style-type: none"> ■目標達成度 <ul style="list-style-type: none"> ・研究成果の普及状況は目標に比してどうか。 ■連携状況 <ul style="list-style-type: none"> ・課題解決に際し、試験研究機関等との情報共有等が適切に行われているか。
教育研修業務	<p><視点Ⅰ：研修教育の内容等について></p> <ul style="list-style-type: none"> ■ニーズ把握 <ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムの編成や運営は、時代に合った農業経営や多様な担い手の要望に沿っているか (模擬会社の設立により、ビジネス感覚等の新たな感性や能力が醸成されているか) ■教育内容 <ul style="list-style-type: none"> ・育成目標とする人材像や求める学生像が明確になっているか ・マンツーマン指導によるプロジェクト学習は、個性に応じた創造力や問題解決能力の向上が図られているか ・カリキュラムは、専修学校として相応しいか ■関係機関との連携 <ul style="list-style-type: none"> ・行政、試験研究機関及び普及指導機関などとの連携は適切であるか

●資料2（評価様式）

新規プロジェクト研究課題候補の評価表

委員氏名: _____

1 地球温暖化から農林水産業を守る研究開発事業

プロジェクト 課題名	評価基準	非常に高い	高い	標準	やや低い	低い
	点数	5	4	3	2	1
	コメント					

2 もうかる農林水産業ステップアップ研究開発事業

プロジェクト 課題名	評価基準	非常に高い	高い	標準	やや低い	低い
	点数	5	4	3	2	1
	コメント					

委員氏名 _____

1 競争的資金制度を活用した研究事業への応募予定課題に対する意見

課題名	
課題名	

助言、提言、疑問点などをお書きください。

2 試験研究推進計画骨子(案)についての意見

--

普及指導活動評価表

氏名	
----	--

(1) 課題別評価

ア 普及指導活動

〈視点Ⅰ：普及課題の設定等について〉

項目	意見・提言
1 ニーズ把握	
2 活動内容	
3 活動体制	

〈視点Ⅱ：研究成果とその普及について〉

項目	意見・提言
1 目標達成度	
2 連携状況	

教育研修業務評価表

氏名	
----	--

1 評価の視点

項目	意見・提言
ニーズ把握	
教育内容	
関係機関との連携	

3 その他（項目に拘わらず）

意見・提言

総合評価表

氏名	
----	--

〈視点〉 農林水産総合技術支援センターの研究・普及・教育の一体化による農林水産技術支援統括本部としての機能充実について

※平成23年5月に「農林水産総合技術支援センター」を構成機関とする「農林水産技術支援統括本部」が本庁組織として設置された。

(1) 試験研究業務	
(2) 普及指導活動	
(3) 教育研修業務	
(4) 全体	

(3) 県政運営評価戦略会議委員名簿 (五十音順、敬称略)

(平成24年11月7日現在)

	氏 名	現 職 等
1	あべ よりたか 阿部 頼孝	徳島文理大学 徳島文理大学経済学部 教授
2	いしだ かずゆき ○石田 和之	徳島大学大学院 准教授
3	いせき かほり 井関 佳穂理	公認会計士
4	こんどう あきこ 近藤 明子	四国大学 講師
5	さたけ ひろむ 佐竹 弘	元徳島大学 産学官連携推進部 副部長
6	たかはた りしこ 高畑 富士子	AWAおんなあきんど塾 会員
7	たむら こういち 田村 耕一	徳島経済研究所 専務理事
8	とさ かずえ 土佐 和恵	松茂農業協同組合 女性部長
9	にった まさこ 新田 正子	東みよし町文化協会 顧問
10	はしもと のぶこ 橋本 延子	女性林業研究グループ「那賀川にまち」 会長
11	はまくち しんいち 浜口 伸一	(株)ハマグチ 代表取締役
12	はまくち ひでよ 濱口 英代	和田島漁業協同組合 参事
13	もりた ようこ ◎森田 陽子	佛教大学 教授
14	もりもと たけお 森本 長生	(株)道の駅日和佐 駅長

注：◎は会長、○は副会長